記念事業のコンセプト

事業の経緯

港区では壊滅的な被害を受けた戦災からの復興と高潮への対策を主な目的として、昭和 23 年から平成４年まで「港地区復興土地区画整理事業」により区域のおよそ９割を約２m盛土するという大規模な土地区画整理事業を実施した。

この世界でも類を見ない大規模な区画整理を記念する事業として、広く港区のまちづくりのあゆみを後世に伝え、市民の文化・交流活動の場となる拠点の形成をめざす。

事業の目的

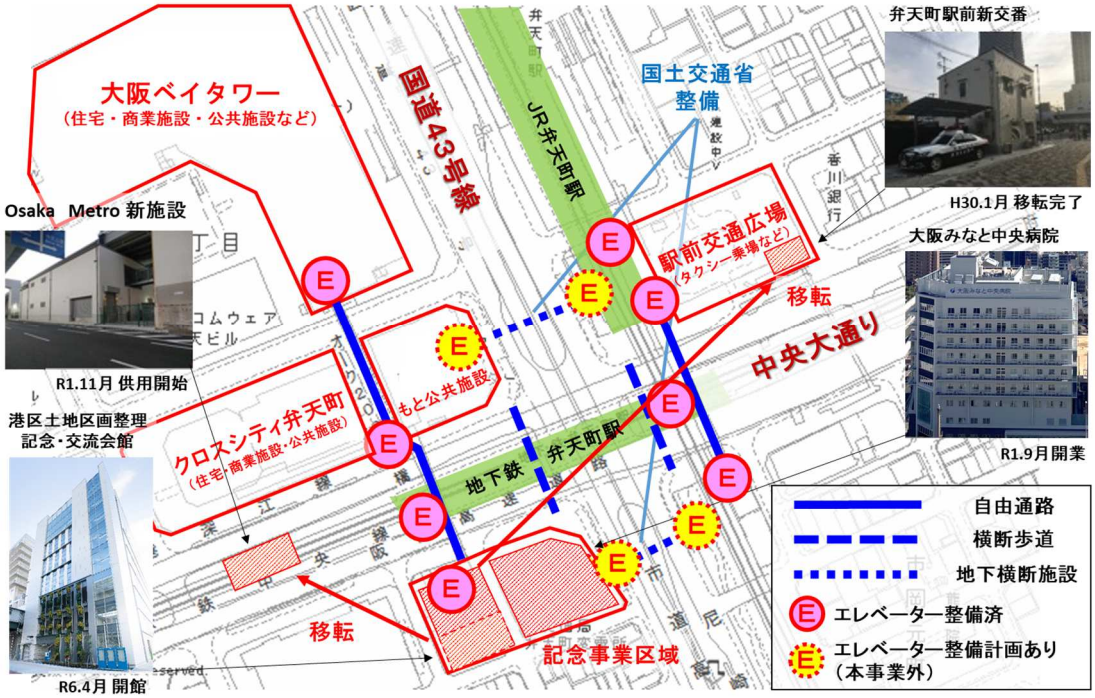
記念事業として、今後の港区のまちづくりに貢献する公共施設（区民センター、老人福祉センター、子ども・子育てプラザ、図書館）を移転・集約した港区土地区画整理記念・交流会館（以下「交流会館」という）を整備するとともに、港区内の総合病院の移転にあわせた共同事業により、隣接する Osaka Metro 用地等も含め一体的に活用し、当該病院との連携・協力のもと、港区の世代間交流と地域医療・災害時医療の拠点機能を形成する。

整備方針

【少子高齢化】
- 交流会館には、世代間交流スペース及び図書スペースを備えた公共施設を整備する。
- 併せて、Osaka Metro 弁天町駅、ＪＲ弁天町駅からのアクセスを一層向上させるため、国道 43 号の南側の地下横断通路のバリアフリー化（ＥＶ設置など）を関係機関と協議のうえ進めている。

港区内の市民利用施設の移転・集約

【地域コミュニティ】
- 交流会館では、地域住民や企業等に地域活動の重要性を啓発し、地域活動に参画するための交流スペースや多様な世代が憩えるスペースや多目的ホールを整備することで、世代間交流を促進し、地域コミュニティの活性化を図る。

【まちの安全・安心】
- 区域の大部分において南海トラフ巨大地震における津波による浸水が想定されていることから、災害時においては、交流スペースなどを防災拠点として活用できるよう整備するとともに、隣接する総合病院とも連携し、災害時医療の拠点機能の形成をめざす。

■周辺の整備状況